

連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード



難しい地合いだからこそ「打診売買」を

今年も残り1カ月半を切った。季節柄では、11月前半で出揃った企業決算をもとに業績の悪いものを売り、業績の良いものに乗り換える「選別物色」を強めていく相場展開を想定していたが、好業績銘柄の物色も盛り上がり、株価指数は安値推移を続けるなど、投資家の物色意欲は依然として低いままだ。

この「買い手控え」に影響を及ぼしているのは「未だ先行きの見えない外部要因」だろう。今や欧州信用問題が相場の関心事となり、欧州時間帯で高債務国の国債利回り上昇（国債下落）が伝わると米国株式市場もすぐさま反応。米国市場下落を見た東京市場も軟調となるなど、負の連鎖が続いている。

ただ、この外部要因主導の調整も8月の米格下げショックから続くもので、相場の悪材料は着実に織り込まれている。安値圏にある株価指数も次第に下げ幅を縮めるなど下値耐性を備えつつ材料慣れしてきた。相場が「さえないから」と見送りを決め込んでいれば、今後予想される反騰局面、買いチャンスを見逃すことにも成りかねない。

そこで弊社では、値頃感のある「20万円以下」の銘柄を対象に、打診売買で相場に臨む「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売する。このレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせしてほしい。